

# 高校生ボランティアが交流

## 横浜で全国100校活動発表

社会貢献活動に取り組み全国の高校生が参加、交流するイベント「高校生ボランティア・アワード2019」が横浜市で開かれた。約100校の生徒が、授業で学んだ技術やアイデアを生かした活動を、会場のブースで来場者に発表した。

主催は、歌手さだまさしさんが設立した公益財団法人「風に立つライオン基金」。社会福祉や地域の活動に頑張る高校生を顕彰する目的で毎年開催し、今年で4回目だ。

認知症の高齢者と農作業を通じて触れ合う「認知症カフェ」を報告したのは青森県立五所川原農林高校。



リンゴ農家だった高齢者と畑で作業したり、生徒が発案したハンドマッサージをしたりして交流している。3年生の山崎未来さんは

「畑に出ると楽しかった記憶を思い出す人も多い。夢中になっている様子を見ると、活動してよかったと思う」と話した。

白河実業高（白河市）の生徒は授業で学んだ溶接技術を生かし、観光地に設置するごみ回収ボックスを製作。3年生の渡辺夏希さんは「地域の人から要望を聞き、降雪や景観にも配慮しています」と解説した。

他にも、東日本大震災の被災地支援や地域の環境保全、子ども食堂の支援など多様な取り組みが紹介された。さださんは「同じ志を持つ者が集まれば勇気になる。高校生ボランティア同士が広くつながってほしい」とエールを送った。

横浜で開かれた「高校生ボランティア・アワード2019」で活動を発表する高校生ら